

ある出会いから

あるとき、高校2年生になる娘からこんな話を聞きました。

先日、中学時代の同級生何人かと久しぶりに会う機会があったらしいのですが、その中の一人、Aさんの変わりようにちょっとびっくりしたといいます。中学生のときのAさんは、おとなしくてあまり目立たなかったのに、自分から進んで話しかけるし、すごく明るくなっていたらしいのです。「何か雰囲気変わったんと違う？何かあったん？」と娘が聞くと、次のような話をしてくれたそうです。

わたしは、中学校の時、体験学習で老人福祉施設に行ったんです。施設に行くと、あるおばあさんの話し相手をするように頼まれました。最初は恥ずかしくて話しかけることもできず、何をしていたかも分からず、ただ一緒にいただけでした。

それでも何とか勇気を出して話しかけてみたんです。

「おいくつですか。」「うーん、・・・」

「今日はいいお天気ですね。」「ああ、・・・」

会話は途切れ途切れで、うまく続きませんでした。

次の日も同じおばあさんの相手を頼まれました。

「おはようございます。」

そう言って、わたしはまだベッドに寝ておられたおばあさんの手を恐る恐る握ってみたんです。すると、おばあさんもぎゅっと手を握りかえしてこられました。そして、おばあさんが「孫に会ってるみたいやなあ。」とにっこり笑ってつぶやかれ、それから少しずつ話ができるようになったんです。

体験学習の終わる日には、「ほんまにありがとう。また来てな。」と言って、わたしの手を何度も強く握ってこられました。

それまでわたしは、初対面の人とはうまく関係をつくることができなかつたんです。でもこの体験学習を通じて、こんな自分でも人の役に立つことができるんだと思い、そのおばあさんの笑顔と言葉がすごくうれしくて、ずっと忘れられなくなりました。

高校生になったわたしは、この施設でボランティア活動をするようになりました。他の高齢者の方とも仲良くなることができ、ますます自分に自信がつけました。今では初対面の人にも自然と話しかけられるようになり、そして、将来は「福祉」関係の仕事に就けたらいいなと考えています。

娘からこの話を聞いたわたしは「Aさんはいい出会いをしたんだね。あなたにもそんな出会いがあるといいね。」と話しました。

何げない出会いが、子どもに大きな自信を持たせるチャンスになることがあります。わたしは娘からAさんの話を聞いて、改めてひとつひとつの出会いの大切さを感じました。